

環境に係る情報協議会

国営かんがい排水事業 幌向川地区

1. 事業の概要(案)

《事業の目的》

本地区は、北海道中央部を貫流する石狩川流域に発達した石狩平野の東部に位置した農業地帯である。本地区の基幹的な農業水利施設は、国営幌向川土地改良事業(S47～H2)により整備されたが、造成後20年以上が経過していることによる経年劣化に加え、積雪寒冷地起因した凍害等によるコンクリートの機能低下が生じている。

また、地区内の一部の畑においては、かんがい施設が未整備なため、降雨に依存している状況にある。

このため、本事業では、基幹的な農業水利施設の整備を行うとともに、併せて関連事業において畑地かんがい施設の整備を行うことにより、農業用水の安定供給を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定に資するものである。

《受益面積》 2,263ha

《主要工事計画(案)》 主要工事 ダム、頭首工、揚水機、用水路(補修・補強)

2. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》

【現状】

岩見沢市の自然環境は、中央部に市街地があり、東部には夕張山地と連なる山地から、西部の石狩川左岸に広がる低平地にいたるまで、多様な自然に恵まれ生息する動物や植物の種類も豊富である。また、西部の低地帯には多くの湖沼が見られ、魚介類をはじめ水生植物も豊かである。

【課題】

山地から湖沼に至る恵まれた自然環境とそこに生息する多様な生物を総合的に保全するため、自然環境に配慮した整備が必要であるとともに、美しい景観を保全するため、環境に配慮した整備が必要である。

(「岩見沢市田園環境整備マスタープラン」より)

《環境保全の基本的考え方》

山地から湖沼に至る恵まれた自然環境とそこに生息する多様な生物を総合的に保全するため、自然環境に配慮した整備を行う。

生産性の向上を図り、地域農業を担う農業者の確保、環境にやさしい農業を推進するとともに、美しい景観を保全するため、環境に配慮した整備を行う。

3. 環境配慮のための環境調査

《基本方針》

① 農地及び施設周辺

本事業により整備を予定している用水路(開水路)と隣接する農地周辺、幌向川及び支流河川に設置されている幌向ダム、頭首工施設周辺において、動植物の生息・生育状況に関する現地調査を行い、本事業における環境配慮対策検討の基礎とする。

本地区近傍で実施された既往の環境調査結果を参考に、調査方法を設定するとともに、調査時期については、動植物の活動時期を対象に行う。

② 水質状況

工事実施中における水質への影響の有無を把握するため、工事実施前のデータ収集として、水質調査を実施する。

③ 景観調査

地域の景観特性である河川、扇状地等において、視点場・視点を確認し、本地区で造成した施設が周辺環境に及ぼす影響を把握する。

◎ 現地調査結果を基に、事業における環境との調和への配慮について検討を進める。

《環境調査内容》

○調査項目 ①ほ乳類 ②鳥類 ③魚類 ④両生・は虫類 ⑤昆虫類
⑥底生動物 ⑦植物 ⑧水質

○調査方法

ほ乳類	:	目撃法、フィールドサイン法
鳥類	:	ラインセンサス法
魚類	:	採捕調査
両生類・は虫類	:	目撃法
昆虫類	:	任意採集法、ベイトトラップ法、 ライトトラップ法
底生動物	:	定性採集法
植物	:	植物相調査
水質	:	SS、濁度